AMDA
多様性の共存
ジャーナル

2024 年 10 月 25 日　VOL.47　第 311 号
発行／ AMDA　〒 700-0013　岡山市北区伊福町 3-31-1
TEL 086-252-7700　FAX 086-252-7717
E-mail:member@amda.or.jp

2024 年
秋 号
秋

救える命があればどこまでも

能登豪雨災害被災者緊急支援活動

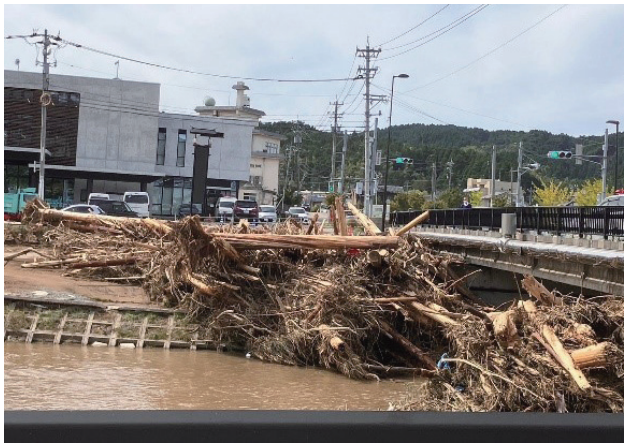
特定非営利活動法人アムダ（AMDA）
https://amda.or.jp/
特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
https://www.amda-minds.org/
特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター
https://www.amdamedicalcenter.com/
AMDA 兵庫　http://amda-hyogo.com/

9 月 21 日に発生した線状降水帯による記録的な大雨により、石川県輪島市では大規模な水害が発生。AMDA は調整員 1 名と看護師 1 名を 23 日に現地へと派遣し、ニーズ調査を実施しました。その後、輪島市保健医療福祉調整本部と協議の結果、AMDA 災害鍼灸プログラムより、鍼灸師 2 名の派遣を決定。28 日より、支援者支援活動として、自身も被災されながら利用者様の生活を支えておられる介護施設の職員の方を対象に、鍼灸支援活動を行いました。

AMDA では、これまで「災害鍼灸プログラム」として、緊急支援活動に鍼灸治療を積極的に取り入れてきました。心身ともにストレスの多い避難所生活において、AMDA は、避難者のみならず、救援活動等に従事する支援者へのサポートも重視して、鍼灸治療を行っています。

施設職員の方々は、自身も被災し、大変な思いをされている中で、支援に入った AMDA スタッフに対しても明るく笑顔で接してくださいました。そのことが一同強く印象に残っています。

いずれの施設においても、施術を受けた方に共通する症状として、慢性疲労、肩こり、腰痛等が見られました。「鍼灸治療は初めて」という方が多くいた一方、施術後にその効果を実感され、「症状が楽になった」との感想をいただきました。



また、断水が続いている中、水が不足している施設に対し、飲料水の提供も行いました。

今回の支援が、現地で復興支援に携わる方や、介護施設などで働く方のお力に少しでも繋がればと思います。今後も AMDA は地元の方と連絡を取りながら状況を注視し、ニーズに応じた支援を行っていきます。

（プロジェクトオフィサー
金高　摩耶）

〈活動場所〉グループホームひなたぼっこ、養護老人ホームふるさと能登、老人ホーム輪島荘

令和６年能登半島地震被災者支援活動　～ 輪島中学校復興支援活動 ～

2024 年元旦に石川県能登半島を震源とする最大震度７の地震が発生したことを受け、AMDA は１月２日に調整員２名を現地へと派遣。１月８日から輪島市立輪島中学校を拠点に、２月３日まで医療支援活動を実施しました。

■ 今回の支援までの経緯

４月に訪問した際、集団避難をしていた中学生が戻ってきた輪島中学校では、校舎が損壊した近隣の小学校６校の生徒たちを受け入れ、区画整理と並行して、授業が行われていました。

その後、「小学校の仮校舎の完成を待って、夏休みの間に小学校の移転作業が行われる」という話を伺いました。小学校の荷物は業者が移動してくれる一方、もともと中学校にあったものは、先生方で移動する必要があるということでした。先生方の負担を減らすために協力ができないかと校長先生に相談し、輪島市教育委員会を通じて、今回の支援活動が決定しました。

支援決定後、AMDA と包括連携協定を結んでいる大学に協力を依頼したところ、岡山市にある IPU 環太平洋大学サッカー部の坂手雅斗コーチから、「被災地の方の力になりたい」と参加の申し出があり、サッカー部有志 19 名の参加が決まりました。

■ 輪島中学校での支援活動

８月５日、午前９時に岡山駅を出発し、午後６時すぎに輪島市に到着。翌６日を活動日とし、朝から輪島中学校に向かいました。中学校では、先生方の指示の下、机や椅子の運搬作業や教室の清掃作業を行いました。音楽室のピアノや技術室の作業机など重量のあるものも多くあり、先生方からは、「これを自分たちだけでするのは難しかった」「作業がとても早く終わって助かりました」とのお声をいただきました。

午後からは輪島中学校サッカー部と合同練習を行いました。基礎練習後、大学生と中学生で混合チームが作られ、紅白戦が行われました。練習後は大学生が用意した IPU のロゴ入りのユニフォームが１枚ずつ中学生に手渡されました。

グラウンドの半分以上の地盤が崩れている状況で、使用できる範囲を整備して部活動を行っている様子を見て、参加した大学生は、「自分たちの置かれている環境や、普段使っているグラウンドがあるのは、当たり前のことではない」と認識したそうです。

■ IPU 環太平洋大学での報告会

９月４日、IPU 環太平洋大学で今回の支援活動の報告会が開催され、サッカー部員の友成翼さん、綱島基起さんによる発表が行われました。

友成さんは１年前に同じく能登半島にある石川県の和倉へサッカーの遠征試合に行った際に現地で良くしてもらった経験から、また綱島さんは、６年前の西日本豪雨の際、他県からボランティアの人が助けに来てくれた経験から、それぞれ今回の参加を決めたと報告しました。

発表では、「輪島市内の様子は想像していたよりもひどく、言葉を失った」「一緒に練習した中学生から、『地震後に部員が転校し、部員数が 24 名から 14 名に減った』と聞き、災害は建物だけでなく、人間関係も壊してしまうのだと感じた」「中学生たちの笑顔が嬉しかった」等、貴重な体験を聞くことができました。最後に友成さんと綱島さんは、「今後も人の役に立てる活動に参加したい」と抱負を語りました。

報告会には、同大学の大橋節子学長をはじめ、約 40 人が集まり、発表に耳を傾けていました。

（プロジェクトオフィサー　小川　直美）

AMDA Journal インタビュー

2024年度　日本青年会議所医療部会　部会長　南　辰也 医師

今年、元旦に震度７の地震が能登半島を襲いました。AMDA は、翌日、１月２日に調整員を現地に派遣し、約 550 人が避難していた輪島市立輪島中学校保健室を医療救護所として、２月３日まで、延べ 792 人の診療を行いました。劣悪な衛生環境下で感染症が猛威を振るう中、日本青年会議所医療部会から提供された支援物資は、AMDA の活動を大いに支えてくれました。今回は、物資を直接輪島まで届けてくださった南辰也様に当時の思いをお聞きしました。（聞き手：AMDA 副理事長　難波　妙）

AMDA　日本青年会議所医療部会（以下、医療部会）について教えてください。

南　医療部会は、今年で創立から 60 年を迎えました。医療に関連する事業に従事するメンバーが約 400 人所属しており、医療制度の研究や海外での医療支援活動を行っています。今年、日本国内では、旭川で医療従事者を目指す次世代育成のために、地域病院と協力して一日職業体験を実施しました。また、私も参加したカンボジアでの学校健診のように、海外でも医療支援活動を展開しています。

AMDA　１月３日には能登半島地震支援活動への協力のお申し出をいただきました。

南　私は、精神科の医師ですが、救急にも関心があり、神戸災害医療センターで災害医療の研修を受けています。AMDA が被災地のど真ん中で迅速に対応しているという記録は、医療部会の中では、脈々と残っており、今回も部会の中から AMDA に協力しようという声があがりました。

AMDA　活動開始直後、輪島中学校避難所では感染性胃腸炎、新型コロナ感染症、インフルエンザが発生し、AMDA は、感染症拡大を食い止めることに必死でした。そんな時、医療部会にお願いした支援物資が届きました。２回目の物資は、南様ご自身が届けてくださいました。輪島中学校に到着されたのは、深夜２時を過ぎていたと思います。あの状況で輪島まで物資を届けるのは大変だったのではないでしょうか？

南　医療部会には様々な医療従事者がいますし、ネットワークを駆使すれば、何かしらの方法で応えられるのが、我々の強みです。あの時は、神戸から東京まで支援物資を取りに行き、その後、金沢でレンタカーを借りて輪島まで向かいました。街灯のない道や、陥没した場所を避けながら、我々の仲間から届いた情報をもとに、なんとかたどり着くことができました。信号は倒れ、ほとんどの建物は崩壊し、深刻な被災状況を目の当たりにして言葉を失いましたが、医療者として、少しでも力になりたいと強く思いました。医療部会のメンバー全員が同じ気持ちでした。

AMDA　おかげさまで、AMDA は感染症の拡大を無事に食い止めることができました。南様をはじめ、医療部会の皆様のご協力があったからこそと改めて強く実感しております。心より感謝申し上げます。引き続き、ご協力をいただければさらに迅速な活動を実現できると思います。どうぞよろしくお願いします。

AMDA 創立 40 周年記念バリ国際会議（インドネシア）

AMDA は 1984 年に岡山で設立され、今年の 8 月で 40 周年を迎えました。8 月 17 日から 19 日、人道支援活動における連携強化を目的に、インドネシアのバリで AMDA 創立 40 周年記念国際会議が開催されました。

会議では、AMDA の今後の方針等についても話し合われ、世界各地で発生する災害により被災された方々、紛争による避難民や貧困で苦しんでいる方々に AMDA の支部とパートナー団体が協力し活動を行っていくことを確認しました。

今回の 40 周年記念会議は AMDA インドネシア支部のメンバーや AMSA（アジア医学生連絡協議会）の学生たちが中心となって実施し、インドネシアの代表的な民族衣装や音楽などを用いた文化紹介も積極的に行われました。（プロジェクトオフィサー　アルチャナ　ジョシ）

インドネシア・AMDA マリノ農場からの便り　EC サイトで販路拡大

AMDA マリノ農場産の赤米

2024 年に開設 10 周年を迎えたインドネシア・AMDA マリノ農場。有機農法で米や野菜を生産している同農場では、この 10 年間、有機農業とオーガニックな農作物に対する生産者と消費者の理解を着実に広めてきました。岡山県新庄村で研修を受けた二人のインドネシア人農家が日本で習得した知識と技術を持ち帰り、現地の伝統農法と組み合わせて、独自の農業を展開しています。

マリノ農場に共鳴して有機農業に転換する現地農家が増え、生産体制もある程度整った昨今。これまで課題であった商品の販路拡大にも新たな兆しが見えてきました。それはインドネシア国内で広く利用されている『Shopee』と『Tokopedia』というオンラインショッピングプラットフォームの存在です。これらのサービスを利用し、マリノ農場では、主力商品ともいえるオーガニックの赤米を出品。商品の動画を投稿するなどして、新たな顧客の獲得に努めています。このほかフェイスブックに広告を出すなどの試みも始めているようです。尚、昨年 12 月、この赤米は現地の有機認証審査機関より正式に有機商品としての認可を受けました。農場開設 10 周年の節目となる中、このような朗報に接して、関係者一同、喜びに沸いています。

（AMDA 本部　近持　雄一郎）

インド・ブッダガヤ　熱波に苦しむ貧困世帯に扇風機を提供

5 月下旬から 6 月にかけて熱波に襲われたインド・ブッダガヤでは、最高気温が 40 度を超える日が続き、昼間の外出禁止令が州政府から出されるほどでした。そのような中、現地協力団体であるジーナアミタッブ福祉財団より扇風機支援に関する連絡がありました。支援対象となった村には電気が通っており、インド政府の支援により電気代は低く抑えられていて、電気製品を使用できる環境が整っていたため、AMDA は扇風機、または天井に取り付けるファンを提供することを決定しました。

7 月 17 日、AMDA は同財団と協力して、扇風機または天井に取り付けるファンを、主に 4 つの村に暮らす各貧困世帯に 1 台ずつ、計 100 台を配布しました。扇風機を受け取った女性は、「夏にぴったりな贈り物をいただき、AMDA の支援者の皆さんに感謝しています」と話し、別の女性は、「この暑い夏に扇風機を買うことができませんでした。本当に必要なものを支援していただき、ありがたいです」と語りました。

（インド事業担当　岩尾　智子）

インド・ブッダガヤ　AMDA あおぞら食堂（食事支援）

サットゥージュースを飲みながら談笑する子どもたち

地元の方による提案により、AMDA はインド・ブッダガヤ近郊に住む人を対象に 2023 年 1 月から食事支援を始めました。毎週火曜日（雨天中止）に開かれる AMDA あおぞら食堂では、冬季は定食、夏季はサットゥージュースを無料で提供しています。開始から 1 年以上経過した今では常連の方もいらっしゃり、食堂が開く前から行列ができます。

最高気温が 40 度を超える日もある 4 月から 9 月は、夏季メニューであるサットゥージュースを毎回 100 人前後に提供しました。ひよこ豆、塩、香辛料とレモンを水に溶かして作る、甘くないサットゥージュースは体を冷やす効果があるとされ、夏バテ防止に地元では昔からよく飲まれています。材料の一部は AMDA の農業事業で収穫した物を使用しています。ジュースを飲んだ人からは、「このジュースの味の決め手は各材料の分量や新鮮さ。ここのは、美味しい」と好評をいただきました。

（インド事業担当　岩尾　智子）

使わないで眠っている年賀はがき、官製はがき、切手はありませんか

切手、ハガキは未使用のものであれば、古いものでも差し支えありません。ご協力よろしくお願いいたします。

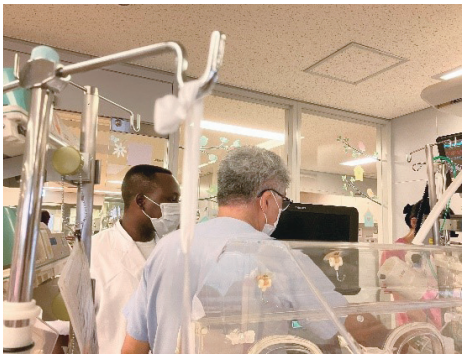
書き損じはがき、未使用切手等を右記までお送りください。

〒700-0013
岡山県岡山市北区伊福町3-31-1
特定非営利活動法人　アムダ
「書き損じハガキ・切手」担当　行

ルワンダより医師が来日

AMDA では、2015 年より特定非営利活動法人ルワンダの教育を考える会とともに、ルワンダの子どもたちの健康増進と死亡率の低下を目的として、学校保健事業の普及活動を行っています。

事業の一環として、ルワンダからサフィナ医師が来日し、7 月 18 日から 25 日まで岡山市で研修を行いました。サフィナ医師は現在病院勤務をしながら、志を共有する仲間の医師たちと学校健診事業を無償で行っています。「2015 年から 7 年間で 4,750 人以上の子どもたちが健診を受けることができました。しかし健診後の体制が整っておらず、病気を特定された子どもがどのような治療を受けられているのか分かりません。今後は健診事業の継続とともに、こうした子どもたちを治療するためのクリニック設立を目指したい」と話されていました。



岡山大学大学院医歯薬学総合研究科免疫・衛生学分野の頼藤貴志教授（AMDA 理事）のサポートの下、岡山医療センター、青山こども岡山北クリニック、ももたろうクリニック、南区南保健センターで研修を行い、日本の小児医療や乳幼児健診の様子を見学しました。

サフィナ医師は、日本の医療設備や一人の患者に対しチームで治療にあたる様子に感銘を受けられ、また、全ての地域で健診が無料で行われている日本の健診システムが素晴らしいと話されました。「自分たちのすべきことがより明確になりました。長い時間がかかると思うが頑張っていきたい」と今回の研修を振り返られていました。　（プロジェクトオフィサー　小川　直美）

AMDA 中学高校生会 8 月定例会 “ 夏休み特別企画佐藤理事長とセッション ”

8 月 23 日、岡山市北区の国際交流センターにて、『AMDA 中学高校生会 8 月定例会』を開催しました。今回は、“ 夏休み特別企画オープンクラス ” と題し AMDA 理事長 の佐藤拓史医師よりお話を伺いました。AMDA 中学高校生会メンバーのほか、新規メンバーを合わせ 20 名の中学生、高校生が参加しました。

当日は、「AMDA について」や「AMDA の活動内容」のほかに、事前に中高生から募集した質問をもとに「理事長の幼少期について」「今までで一番印象に残っている活動」「学生時代に興味があったこと」「医師を目指した理由」など、理事長自身についても詳しくお話しいただきました。休憩時間には、佐藤理事長の即興数学教室も開催されるなど、夏休みの貴重な経験になったのではないかなと思います。

参加した学生からは、「なんとなく今を過ごすのではなく、いろいろなものに興味を持って、もっと積極的に行動してみようと思いました」「進路に悩んでいた今のタイミングで先生のお話を聞くことができてよかったです。あきらめずに頑張ってみようと思います」などの声を聞くことができました。

今後も AMDA 中学高校生会は、将来のきっかけ作りの場となれるよう、積極的に活動して参ります。

（プロジェクトオフィサー　金高　摩耶）

現在ご寄付受付中の活動は・・・

・能登半島復興支援	・ウクライナ人道支援	・ハイチ	・カンボジア
・インドピースクリニック	・インド医療支援	・ネパール医療支援	・東日本大震災
・内視鏡技術移転	・こども食堂支援	・AMDA 中高生会	・災害事前対策

ウクライナ避難者支援活動、子どもの緩和ケアにも支援を拡大

2022 年 2 月 24 日のウクライナ人道危機勃発後、AMDA は、同年 3 月からウクライナ国内 2 ヶ所、隣国ハンガリー 2 ヶ所の関係団体とともに人道支援活動を実施しています。今年 7 月上旬、これらの団体とハンガリーで今後の活動計画について話し合い、支援の継続を約束しました。その際、ウクライナの提携団体でハルキウを拠点とするダイナスティメディカルセンターは、空爆の激化のため、オンラインでのミーティング参加となりました。

また 8 月には、コルンスキー・セルギー駐日ウクライナ特命全権大使閣下のご紹介により、ウクライナの医療団体『City of Goodness』にも協力することになりました。この団体は、ルーマニアとの国境付近で子どもの緩和ケアを備えた病院を運営しています。多くの重い病気を抱えた 1 歳から 14 歳の子どもたち、戦禍を逃れた母子など 300 人が身を寄せています。食事、医薬品などに加え、AMDA は子どもたちのリハビリ、緩和ケア、シングルマザーの自立支援などの面でサポートを行っていく方針です。

← City of Goodness の紹介動画をご覧いただけます。

（AMDA 副理事長　難波　妙）

AMDA こども食堂プラットフォーム夏休み特別企画！トライフープ岡山とバスケ交流

8 月 17 日、津山市立林田小学校体育館にて、岡山県を拠点とするプロバスケットボールチーム『トライフープ岡山』より、佐藤大成選手、小池文哉選手、浜田貴流馬選手の 3 名にお越しいただき、小学生約 30 人を対象にバスケットボール教室が開催されました。選手が一人ひとりに対して、丁寧に指導してくださり、終始笑い声の絶えないとても和やかな時間となりました。ランチタイムでは、選手たちを交えて、美作大学食物学科の学生ボランティアの皆さんが調理してくださった夏野菜カレーをいただきました。質問コーナーや、サイン会も開催され、子どもたちにとっては、夏休みの貴重な経験になったのではないかと思います。

「『失敗してもいい！次に成功すればいいから』と言っていただけたことが、とても心に残っています。成功した時に、たくさん褒めてもらえて、とても嬉しかったです。今日の経験を大切にこれからも頑張ります」など、参加した子どもたちから選手たちへお礼の言葉がおくられました。

（財務部長　難波　比加理）

岡山近隣の大学生や留学生、在住外国人にお米を提供

昨今の物価高騰に対する食糧支援として、AMDA は独自に備蓄している玄米を岡山県内や近隣の福山市（広島県）に居住する学生や留学生、外国人に提供しました。

岡山県立大学では、玄米とレシピをセットとして 153 人に配布しました。また IPU 環太平洋大学では、IPU フリースクールの子どもたちが大学生とともに玄米の運搬や精米作業に参加。その後、全員で焼きおにぎりを楽しみました。多くの学生たちから、「経済的に厳しくなってきているので、非常にありがたい」との声が聞かれました。

同様に、AMDA は岡山と福山在住のネパール国籍の留学生にもお米を提供。7 キロを一人分として小分けにし、計 173 袋を配布しました。岡山ネパール協会は、「日本で懸命に学び続けるネパール人の若者たちの心の支えとなる。今回の支援が彼らの生活に希望を与え、前向きに歩む力となることを願う」と AMDA に謝意を表し、記念品を贈呈しました。

このほか、AMDA は、倉敷を拠点とする在日フィリピン人組織、岡山倉敷フィリピーノサークルにもお米を提供。フィリピンの独立記念日を祝う集まりの際、玄米 300 キロが参加メンバーに配布されました。

いずれの団体も AMDA とは協力関係にあり、今回の支援は AMDA の相互扶助の精神に基づいて行われました。

（財務部長　難波　比加理）